

## 「事後学習」

連携団体 ひなた緑地遊学会

2021年2月27日（土）

### 報告



2月27日（土）、地域ボランティアプログラム“松木日向緑地プログラム”の「事後学習」をオンライン（Zoomミーティング & Google Jamboard）で実施しました。

この「事後学習」では、これまでの活動を振り返り、他のメンバーと共有することで自分自身の想いと向き合ったり、多角的な視点からボランティア活動の効果と意義を考えたりすることで活動を学びと成長につなげたりすることをねらいとしています。本プログラムのアドバイザーである加藤 英寿先生（本学 牧野標本館 助教）や連携団体である「ひなた緑地遊学会」代表の北出 進さんにもお越しいただき、学生の振り返りにご参加いただきました。

### 「ココロ（キモチ）」の振り返り

最初に「ココロ（キモチ）」に向き合う、感情面の振り返りを行いました。まずは、活動の中で“最も感情が動いた場面”を各自で考え、その後、グループで共有しました。学生からは、「体験会に参加してくれた方や、関心を示してくれた人が意外と多かった」「現地に行けなくても活動できた（オンラインミーティングやYouTubeでの発信）」などの話があり、例年通りの活動ができない中でも様々な場面でポジティブな感情になっていたことが分かりました。一方で、加藤先生や北出さんから「せっかく竹林を整備してきたのに10年前の状態に戻ってしまった」という話もありましたが、今年度は活動機会が大きく減ってしまったので、社会課題である竹林の過密化は進んでしまいました。

さらに、「これまで近隣の子もたちが来たりと学生の参加人数が多かったりしたが、活動人数が減り、これまでの里山の雰囲気との違いがあった」「一時期、活動（竹林整備）ができなかったことで、自分たちの活動の効果を知ることができた」といった話も出ました。このような話は一見するとネガティブな感情のように捉えてしまいがちですが、例年と異なる活動の頻度や形態、風景から、新たな発見があったようです。ポジティブ・ネガティブな感情がそれぞれ明確に分かれているだけでなく、様々な感情や気持ちが結びつき、新たな発見などにつながっているようでした。

### 「アタマ」の振り返り

次に、「アタマ」の振り返りとして、今回取り組んだボランティア活動の効果・意義について各自で考えた後、グループで共有しました。さらに、そこで共有された効果・意義の一つひとつを、①ボランティア自身、②課題の当事者・活動の対象、③活動する組織、④地域・社会、といった対象別に分けて可視

化しました。以下、共有されたアイデアの一部です。★がついているものは、「コロナ禍だからこそ」の効果・意義です。

#### 【①：ボランティア自身にとって】

- ・気分転換になったこと
- ★継続的な活動の大切さや緑地の魅力を再認識したこと
- ★考える時間が長かった分、より緑地について議論することができたこと

#### 【②：活動の対象や課題の当事者にとって】

- ・里山保全の一翼を担えたこと
- ・少しでも竹の間伐を進めることができたこと
- ★（新入生を含むメンバー以外の学生に）緑地に触れる機会を提供することができたこと
- ★大学に行けないからこそ、（情報発信などを通して）緑地について興味をもってくれた人がいたこと

#### 【③：活動する組織にとって】

- ・体験会チラシが、結果的に我々の活動を学生だけでなく学内に認知してもらえるきっかけになった
- ★新入生の大学に関わるきっかけになれた

#### 【④：地域・社会にとって】

- ・生態系サービスが受けられることに役立ったこと
- ・子どもたちが自然に触れることができること（今後）

### プログラムの修了

今年度の活動は、これで終了になります。プログラムを修了した学生には、修了証をお送りしました。今年度は新規の学生の募集や事前学習ができなかった中、活動継続3年目以上の「リーダー」学生のみでの活動となり、活動自体の見直しも含めて取り組んできた1年間でした。今回、新たな発見や気づきがあったことを共有できましたので、それぞれの場所でそれを生かしていただければと思います。

#### 「事後学習」参加者の声（一部）

- ・活動が制限されたことによって、より活動の意義や効果を知ることができた。  
また、制限がある中でどのように工夫して活動をするか考えることができた。
- ・他の人の感じていることを聞くと、自分の見えなかった視点が見えてきたように思いました。
- ・あまり活動できなかった一年だったが、メンバーそれぞれのとらえ方があって、思った以上に効果的なこともできたのだなと気づいた。